

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：金融市場の将来

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：木下 信行

所属：現東京前金融取引所社長、元日本銀行理事

論文要旨（800字から1200字、英文の場合は300から450語）

金融取引は、そのために提供されるサービスは情報通信技術によって左右される一方、それにより生ずる権利義務関係の変化は法制度によって規定される。こうしたなかで、情報通信技術の進歩がすすめば、金融サービスには、クロスセクター、クロスボーダーの競争のもとで、世界共通に革新が求められることになるが、法制度には、各国の政治的決定に経路依存性が働くため、国毎の対応に相違が生じる。こうして生ずる金融取引に関わる情報通信技術と法制度の食い違いは、事業者の提供する金融サービスの格差を通じて、各国の金融市場の競争力に影響をもたらすことになる。

本稿では、このような考え方のもとで、金融市場を中心に最近の状況を整理し、情報通信技術の進歩への対応という観点から、わが国金融制度の課題を抽出することとする。

具体的な構成としては、第1節において、情報処理費用という観点から、情報通信技術と金融制度の関わりを整理する。第2節においては、金融制度について、その内訳やわが国における特徴を説明する。第3節においては、情報通信技術の進歩に伴う金融サービスや金融市場の革新に関し、外国における実例やわが国における状況を概観する。第4節においては、以上の整理を踏まえて、わが国の金融制度について、情報通信技術の進歩に伴う競争に伍していくための課題と対応策を提言する。